

部会名	野菜・花き
技術・情報名	伊勢いもの不定芽利用による種いも増殖法
実施機関名	三重県農業技術センター園芸部
分類	1

1. 技術・情報の内容

1) 技術・情報の内容及び特徴

慣行のイセイモ栽培では、種いもは収穫物の一部を残すことで確保してきた。しかし、肥大率が悪いために種いもは生産物の30%も必要となり、しかも良品から販売するために、時として不良品が種いもとなることがある。そこで、この繁殖法により、種いも専用圃場を設けて安定した良品生産が行える。(第1~4図)。

(1) 不定芽による繁殖法： 優良形質のいもを選んで頂芽を取り除き、3月中旬に掘り取りやすい砂等に密植する。トンネル被覆とし催芽すると、不定芽が新しいもを形成して出てくるので、10~15日間隔で定期的に掘り取り、いもの径が1cm以上あるいは地上部をあわせて2g以上の不定芽をもぎ取って定植する。親いもの大きさにもよるが、この方法により約30個不定芽が得られる。

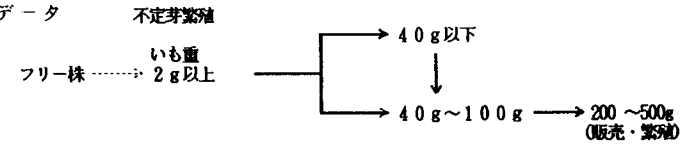
2) 技術・情報の適用効果

今後ウイルスフリー株の普及が見込まれるため、試験管内での増殖を補完する目的で、ウイルスフリー株配布機関での増殖圃と現地での種いも生産圃場で利用ができ、いずれも小さな面積で増殖ができる。

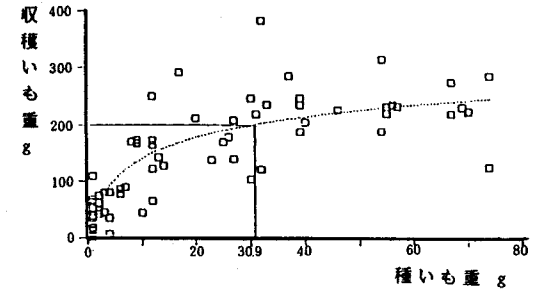
3) 普及・利用上の留意点

- (1) 不定芽の定植時期が遅れて、生育期間が短くなる場合は不定芽を大きくしてから用いる。
- (2) 種いもは生産物の小さいいもから選ぶと、肥大率の悪いものがあるので注意をする。
- (3) 増殖段階での病虫害防除は従来よりも徹底する。

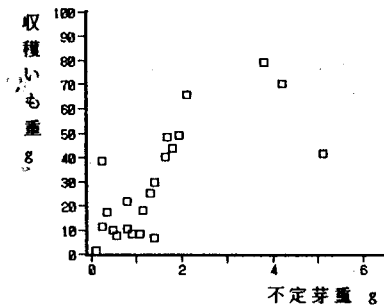
2. 具体的データ



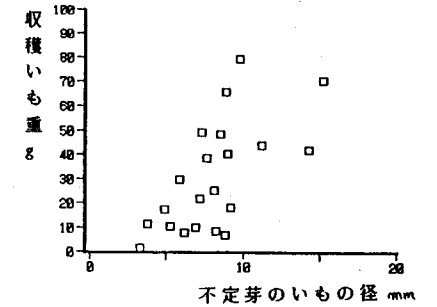
第1図 増殖年数と種いも重 (→ は1年間を表す)



第2図 定植時の種いも重とその収穫いも重の関係



第3図 植え付け不定芽重とその収穫いも重の関係  
\* 4月17日定植



第4図 植え付け不定芽のいもの径とその収穫いも重の関係  
\* 4月17日定植

3. その他特記事項

研究期間：昭和61年~63年

予算区分：県単

研究課題名：中山間地帯における園芸作技術のシステム化

研究担当者名：森 利樹